



# ちはやあかさか 議会だより

第 122 号

平成 29 年 11 月 1 日

発行 千早赤阪村議会

編集 議会広報編集委員会

〒585-8501

大阪府南河内郡

千早赤阪村大字水分 180 番地

TEL 0721 - 72 - 0081

FAX 0721 - 72 - 1880



平成 28 年 10 月完成 千早浄水場 (10 月 13 日 議員視察)

## — 主な内容 —

定例会議決結果	2
全員協議会・研修報告	3
いっぱん質問	4~9
議会活動日誌	10
	ページ



楠木正成の  
イメージキャラ  
「まさしげくん」

(千早赤阪楠公史跡保存会提供)

## 9 月定例会のあらまし

平成 29 年第 3 回 (9 月) 千早赤阪村議会定例会は 9 月 5 日に開会し、条例改正、一般会計補正予算、決算認定など計 12 議案が提案され、それぞれ可決、委員会付託しました。9 月 22 日の最終日には、委員会付託 12 件、追加議案 1 件を可決し、一般質問をもって 18 日間の定例会を閉会しました。

「議会だより」は、年 4 回 (5 月、8 月、11 月、2 月) の発行です。(臨時号を除く)

## 9 月定例会 議決結果

案 件 名	議決結果
・ 議案第 57 号 専決処分[平成 29 年度千早赤阪村一般会計補正予算(第 5 号)]の承認を求めることについて	即日原案承認 (全員)
・ 議案第 58 号 千早赤阪村表彰条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 59 号 一般職の職員の給与に関する条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 60 号 千早赤阪村ひとり親家庭の医療費の支給に関する条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 61 号 千早赤阪村子どもの医療費の助成に関する条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 62 号 千早赤阪村老人医療費の助成に関する条例廃止について	原案可決 (全員)
・ 議案第 63 号 千早赤阪村身体障害者及び知的障害者の医療費の助成に関する条例の改正について	原案可決 (賛成多数)
・ 議案第 64 号 千早赤阪村災害見舞金等支給条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 65 号 千早赤阪村消防団条例の改正について	原案可決 (全員)
・ 議案第 66 号 平成 29 年度千早赤阪村一般会計補正予算 (第 6 号) について	原案可決 (全員)
・ 議案第 67 号 平成 29 年度千早赤阪村国民健康保険特別会計補正予算 (第 3 号) について	原案可決 (全員)
・ 議案第 68 号 平成 29 年度千早赤阪村介護保険特別会計補正予算 (第 1 号) について	原案可決 (全員)
・ 議案第 69 号 平成 29 年度千早赤阪村下水道事業特別会計補正予算 (第 1 号) について	原案可決 (全員)
・ 報告第 3 号 平成 28 年度健全化判断比率について	—
・ 報告第 4 号 平成 28 年度資金不足比率について	—
・ 議案第 70 号 平成 28 年度千早赤阪村一般会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (賛成多数)
・ 議案第 71 号 平成 28 年度千早赤阪村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (全員)
・ 議案第 72 号 平成 28 年度千早赤阪村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (賛成多数)
・ 議案第 73 号 平成 28 年度千早赤阪村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (賛成多数)
・ 議案第 74 号 平成 28 年度千早赤阪村下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (全員)
・ 議案第 75 号 平成 28 年度千早赤阪村金剛山観光事業特別会計歳入歳出決算認定について	原案承認 (全員)
・ 議案第 76 号 平成 28 年度千早赤阪村水道事業会計決算認定について	原案承認 (全員)
・ 議案第 77 号 平成 29 年度千早赤阪村一般会計補正予算 (第 7 号) について	即日原案可決 (全員)

### 第 4 回 (12 月) 定例会の日程 (予定)

月	日	会議の内容	
12月	5日 (火)	本会議 (初日)	議案上程、審議
12月	19日 (火)	本会議 (最終日)	追加議案上程、 審議、一般質問

※開会時間は、いずれも午前 10 時です。このほか、各委員会等も開かれます。日程は都合により変更となる場合がありますので、傍聴される方は事前に議会事務局へお問い合わせください。(TEL 0721-72-0081)

# 全員協議会報告

8月2日 開催

## ▼こごせ幼稚園のあり方と認定こども園について

こごせ幼稚園の入園児数の推移、在園児数推移の説明と平成29年2月実施の「子ども・子育てアンケート」(有効回収数75通有効回収率50・3%)、6月に2回実施の子ども子育てミーティング(計10名参加)に於いて保護者の方より「教育・保育の内容や方針が希望にあう」「幼稚園の人数が減っており、園児の競争心がなくなってきた」「認定子ども園は保護者の選択肢が増える」「認定子ども園は働きの融通がきく」、等の意見があった。その後、認定子ども園と幼稚園、保育所の違いや利用方法等の説明の後、質疑として、子ども園を民設民営で行う場合の行政のかかり方や幼稚園は教育委員会、保育園は健康福祉課が所管だが認定子ども園の担当は、今後進めていく中で検討する。

また、規模人数についても今、検討中で具体的な数字は出ていないと報告があった。

9月15日 開催

## ▼工事請負契約の報告

村道舗装工事として、以下2件と金剛山ロープウェイ専用水道施設の工事が報告された。

一、村道水分東阪線舗装工事 金額 1983万円

二、村道森屋ひえの前線舗装工事 金額 1004万円

三、金剛山ロープウェイ専用水道膜ろ過設備設置外改修工事 金額 4320万円

## ▼新庁舎建設の現状について

現在計画している新庁舎建設に係る現在の進捗状況の説明があり、庁舎建設については現在、当初の予定通り事務処理を進めているとの報告があった。

## ▼千早赤阪村過疎地域自立促進計画の変更について

千早赤阪村過疎地域自立促進計画(平成26年度から平成32年度)の概要説明を受け企業誘致補助事業、文化遺産等のトイレ整備事業、間伐材搬出補助事業、景観向上整備事業を今年度変更で追加すると報告があった。

また、規模人数についても今、検討中で具体的な数字は出ていないと報告があった。

# 研修報告

大阪府町村議長会主催

## 議員セミナーに参加して

テーマ「映画・映像を使ったらまちおこし」映像がもたらす新しい可能性とは何か：実施日 7月25日(火)

参加者 府内町村議会議員及び議会事務局職員120名

近年、外国人観光客の増加に伴い、全国的に観光施策・観光振興が課題のひとつとなっている。今回のセミナー

は、滋賀県全体をロケ地として活用し、映画やドラマなどを通じて自治体内の自然や風景

といった、地域のどこにでもある風景を全国に発信する講演であった。

滋賀県は知名度の向上と観光・地域振興を図るため県と市町が共同で事務所を設置し、映像制作者に対し誘致の働きかけを実施。従来の景勝・名所だけでなく、今までスポットがあたつていなかったところ

にスポットをあて、新たな観光資源となり観光客を得る「ロケツーリズム」を推進している。

またロケ地域の住民が映画のエキストラで参加したり、ロケ隊の食・住をサポートす

るなど住民と行政が一体となり映画の製作を支え、このような取り組みにより地元

に大きな経済効果をもたらし、観光振興を図っている。

私たちの村においても、隠れている貴重な資源があちこちに点在しているように思う。映像の力は大きい村おこしに最適かも・・・

またロケ地域の住民が映画のエキストラで参加したり、ロケ隊の食・住をサポートする

るなど住民と行政が一体となり映画の製作を支え、このような取り組みにより地元

に大きな経済効果をもたらし、観光振興を図っている。

私たちの村においても、隠れている貴重な資源があちこちに点在しているように思う。映像の力は大きい村おこしに最適かも・・・



るなど住民と行政が一体となり映画の製作を支え、このような取り組みにより地元大きな経済効果をもたらし、観光振興を図っている。私たちの村においても、隠れている貴重な資源があちこちに点在しているように思う。映像の力は大きい村おこしに最適かも・・・

## 広報編集委員会

- |      |    |    |
|------|----|----|
| 委員長  | 山形 | 研介 |
| 副委員長 | 田村 | 陽  |
| 委員   | 井上 | 浩一 |
| 委員   | 千福 | 清英 |
| 議長   | 田中 | 博治 |



編集委員会風景

# いっぱん質問

9月定例会では、6人の議員が一般質問を行いました。内容・レイアウトは、質問した議員の責任で作成したものです。



## 関口 ほづみ 議員

### 問 国保の都道府県化に伴う住民負担増の軽減を

### 答 激変緩和期間は柔軟に対応したい

**問** 来年4月から国保の都道府県化が実施される。今年2月に府が試算した保険料では、現行より下がる自治体は6市町のみだ。今年4月時点で保険料を引き上げたのは千早赤阪村のみであった。

①府が予定している、2回目の試算は公表されているか。

②その結果、村の保険料はどうなるのか。

③基金を活用し保険料を引き下げる努力が必要だ

④保険料の一律化を求め、引き下げる自治体にペナルティを取らないよう国・府に要望すべきか。

**答** ①府の試算では村保険料の1.5倍の試算となり、伸び率は他市町と比べ突出することになった。国保運協に意見を求め、1人当たり約2万円を引き上げた。②まだ公表されていない。

③府が示す試算を注視し府の標準保険料率をもとに、基金残高も鑑み、総

合的に判断する。④保険料の激変について、6年間の激変緩和処置期間内で柔軟に対応したい。

### 問 小吹台入口作業現場土地の用途変更の検討を

### 答 村として回答する立場にない

**問** 小吹台入口の作業現場は、昨年8月に問題が起きてから1年以上経過している。地元では自治会を中心に検討委員会を立ち上げ、解決に向けて協議が続けられている。日本共産党も問題発覚直後から大阪府や富田林

市への要望も行ってきた。長く時間がかかることから、大阪府、富田林市、村の協力と業者への厳しい指導が欠かせない。

村は地元の要請にこたえ、引き続き関係機関と連携し、その都度厳しく指導し、違反行為があれば行政措置を取ること。

また解決のために、市街化調整区域の変更など用途変更も検討すべきではないか。

**答** 事業者は古物商の許可による事業を営んでいる。月に一度大阪府の産業廃棄物指導課が現地に出勤し、自動車解体業に当たる行為がないか、確認・指導を行っている。その他、府建築安全課、富田林の関係各課も指導している。村は法に基づく権限はないが、関係機関と緊密に連絡をとり対応してきた。今後も、府・富田林市と共に、情報収集に努め、必要に応じて、行政連絡調整会議を開催する。

### 問 就学援助の入学準備金の前倒し支給を

### 答 現時点では考えていない

土地利用については、村の行政区域外であり、村として回答する立場にない。

**問** 大阪府・富田林・村が実施するパトロールに、地元の関係者も同行できるよう求める。

**答** 府の判断を仰ぐ。

**要望** 連絡調整会議のなかで、土地の用途変更なども議題にすること。

**問** 子どもの貧困が拡大されるなか、その対策が実施されている。村の平均年収ランキングは府下41番目で、就学援助数は年々増加している。子どもの教育を保障するために、就学援助の拡充・入学準備金を2〜3月に前倒し支給するよう求める。

**答** 就学援助受給者は年々増加傾向にある。前年度所得の確定が6月になり、場合によって、確定時点で返還を求めることになることもあり、現時点では前倒し実施は考えていない。

**問** 府下の実施状況は。

**答** 平成29年度実施済は4市1町。南河内地区の状況は、平成30年入学実施予定は3市1町、平成31年度入学者検討中は1市等となっている。

**要望** 前倒し実施は全国的な流れになっている。村でもぜひ実施を。



## 藤浦 稔 議員

問 一般国道309号バイパス整備は、本年度末に供用開始されると聞いた。これまで河南町域の交通安全等は確保されると察するが、本村に入ると幅員が極端に狭くなり急カーブが存在する道を通行することになる。

# 問 国道 309 号沿いの川野辺・水分地区の交通安全対策を

## 答 引きつづき交通安全対策を講じていく

問 一般国道309号バイパス整備は、本年度末に供用開始されると聞いた。これまで河南町域の交通安全等は確保されると察するが、本村に入ると幅員が極端に狭くなり急カーブが存在する道を通行することになる。

川野辺・水分地区の皆さん、特に、高齢者・小中学校へ通学する子どもから、「道路を横断するのも怖い！」というほど危険を感じ心配されている。水分地区のカーブは危険極まりない状況であり重大な交通事故が起きるからでは取り返しがつかない。



水分地区内カーブ

そこで、グリーンベルトゾーンの確保や歩行者が安心して通行できるポールの設置等、少しでも効果が発揮できる施策を地元自治体として、国・府等の関係機関に働きかけ早急な対応を講じていただくよう要望する。

# 問 不審者対策として中学校に門扉を

## 答 不審者の侵入等を防ぐ措置を行っていく

問 日本は世界の中で治安が一番と言われている。こうした中で、村民の皆さんが安心して暮らせるよう、外灯のLED化や防犯カメラの設置を行い、安心・安全な村づくりを目指して、本村行政として努力しているが、更に、日本の中で「治安が一番の村」と言われるようになれば、まさに「住みよい安心・安全」の村づくりにつながると確信している。

そこで、本村の現状の防犯対策について、次の3点を伺う。  
①防犯カメラは3ヶ所、また本年度は3ヶ所であるが、今後も計画的に設置するの。  
②青パト（子ども安全見守り隊）運用の現状について。  
③9月号広報紙に掲載された「村立中学校」の門扉等の不審者対策及びセキュリティ対策について。

答 防犯カメラの設置については、本年度中に3ヶ所追加し、これで村内の主要な交差点6ヶ所に設置が完了し、村内への侵入について概ね把握できる。青パトについてはパトロール隊の皆さまに巡回パトロールを引き続き行っていただけのことになっている。中学校門扉設置は、生徒の安心・安全が第一の考えであり、不審者等の侵入を防ぐ措置について協議検討中。

要望 最近の思わぬ事件・事故を見ると何が起きてもおかしくない世の中になっている。村内各駐在所の努力で犯罪及び交通状況等の啓発ビラを発行していただいております。村内住民は感謝しているところだ。





## 千福清英議員

### 問 村の観光施策について

### 答 計画的・効果的な観光振興を 図っていく

**問** 村には、「金剛山」・「楠公さん」・「棚田」など様々な観光資源があり、観光事業は重要な産業であると考えており、この素晴らしい財産をどのように村の活性化に結びつけるのか、また、村の収入に結びつけるか重要である。

**答** 分野への投資に見合うだけの経済効果が上がっているのか？あるいは上がっていないのか？担当課としてどのように思っているのか伺う。

**答** 一般会計においては、登山道の周辺整備、観光協会への支援、奉建塔周辺整備、道の駅、棚田公園の整備等の予算を計上し取り組んでいる。

**問** 観光分野への投資効果については、観光客が村にお金を落とすことが少ないとの指摘がある。目的とする観光資源への訪問のみで終わってしまい、飲食店やお土産など関連消費への広がりが少ないと感じている。

**答** その一方、金剛山・棚田等を訪れる観光客は多く、また各種メディアに「楠公さん」・「棚田」など掲載されることも増えており、観光分野での活動が本村の知名度向上など間接的な経済効果はあるのではないかと考えている。

**問** 観光による経済効果をより高めていくため、村としてどのように考えているのか伺う。

**答** 観光客をはじめ村内外の消費者による村内生産品の消費拡大を図るため、観光協会が取り組むお土産開発を支援し、米粉を使ったプリンやパウンドケーキ、ラスクが商品化されている。

**問** 今後とも、地域資源を活用した新商品の開発等、経済効果につなげる取り組みを支援していく。

**答** また、来訪者が村内の複数の観光地を回遊するよう観光資源PRの工夫や地元産品の販売方法についても支援を検討していきたいと考えている。

**問** 村全体を観光という起爆剤で盛り上げて、そして交流人口を増やしたい。

### 問 決算における不用額について

### 答 限られた財源の中で創意工夫を 図り、諸施策の展開を図る

**問** 村の場合、高齢者率が大阪府下でも非常に高く、今後、財政状況が厳しくなることが予想される。そうした中で、毎年、予算を組むにあたっては、貴重な税金をいかに有効な施策に配分するかが重要である。

**答** 私も長年、民間企業で働いてきたが、民間も役所も同じで不用額が極端に多くなることは、資金運用や効果的な予算配分を行うという点で好ましくないと思う。来年度の予算を作るにあたっては、今回の決算をどのようにに反映していくのか伺う。

**答** 議員ご指摘のように高齢化率が43・1%で府内トップであり、自主財源である村税が年々減少しており今後ますます財政状況が厳しくなる状況である。

平成30年度の予算編成にあたっては、村の重点施策を着実に実施していくために、社会情勢の変化に的確に対応しながら、本村の財政状況を十

ていくためには柱をしかり立て、村の財政の収入の増加につなげていくビジョン、戦略のようなものが必要と考える。

**答** 観光に関する取り組みについては、過疎地域自立促進計画で、点在する観光スポットのネットワーク化や他の自治体と連携した広域的観光ルートの設定や観光宣伝などを実施するとしており、今後、計画的・効果的な観光振興を図っていく。

**問** 村の場合、高齢者率が高齢者率が大分府下でも非常に高く、今後、財政状況が厳しくなることが予想される。そうした中で、毎年、予算を組むにあたっては、貴重な税金をいかに有効な施策に配分するかが重要である。

**答** 私も長年、民間企業で働いてきたが、民間も役所も同じで不用額が極端に多くなることは、資金運用や効果的な予算配分を行うという点で好ましくないと思う。来年度の予算を作るにあたっては、今回の決算をどのようにに反映していくのか伺う。

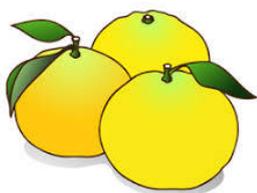
**答** 議員ご指摘のように高齢化率が43・1%で府内トップであり、自主財源である村税が年々減少しており今後ますます財政状況が厳しくなる状況である。

平成30年度の予算編成にあたっては、村の重点施策を着実に実施していくために、社会情勢の変化に的確に対応しながら、本村の財政状況を十

分勘案するとともに、前年度事業の効果、実績、決算等を分析・検証していく。

しかしながら平成28年度決算では、多額の不用額が発生している状況であるので、課長ひとりひとりが議員から指摘されたことを真摯に受け止めて予算編成を行っていく。

また、特に必要と認められる事業に重点配分しつつ、先例にとらわれることなく事業自体のあり方から抜本的に見直すなど、限られた財源の中で、創意工夫を図りながら、最少の経費で最大の効果をあげるよう諸施策の展開を図っていく。





## 問 防災対策の見直しを

## 答 小型発電機により対応

井上 浩一 議員

**問** 政府の報告によると現在の知見では「地震予知は困難」とされ南海トラフ巨大地震に関し、予知を前提とした法に基づく防災対策を「改める必要がある」と指摘した。そこで防災対策を見直すべきと考える。指定避難場所の施設について十分な備えが出来るのか伺う。

①自家発電設備はあるのか（非常用電源）。  
②防災備蓄倉庫の現状（量・保守点検）。  
③防災行政無線の現状と対策は。

**答** ①いずれの施設も自家発電設備は未設置、対策として可搬型の小型発電機により対応予定。  
②現在の防災備蓄状況は、飲料水7200L、アルファ化米1600食、保存用パン372食、焼菓子400食、粉ミルク、紙オムツ、生理用品等を分散備蓄しており、定期的に物資の更新を行っている。また、避難の長期化に

備え、民間企業のサンプラザ・市民生協・コメリ等と災害時における物資の供給協力に関する協定を締結している。  
③防災行政無線については、聞き取りにくい状況の対策として、直前の放送内容を聞くことができず、個別受信機で対応している。

**問** 自家発電設備は停電時に対策本部の設置場所を確保する観点から、十分な容量を持つ設備の検討を願いたい。また、小型発電機、備蓄倉庫にある消費期限のない物について、定期点検・整備はしているのか。

**答** 新庁舎に設置を予定している。小型発電機の増設は考えていない。

**要望** 備蓄倉庫にある、カセットコンロや小型発電機等の機械類は、いざという時に使用できなければ無意味なので、常時稼働できるように点検整備を願う。

## 問 難病見舞金の支給は

## 答 適切な支援をして行く



**問** 国では難病を患っている患者家族の負担軽減に取り組んでいる。しかし入院を繰り返す等、生活の負担は厳しい現状である。

そこで、サポートのひとつとして、地方自治体から見舞金を支給している所もあるが、難病見舞金について、村としての見解を伺う。

**答** 難病については、現在国が調査研究の推進、医療施設の整備、医療費の自己負担の軽減など総合的な難病対策を行っている。

難病で特定疾病に該当し、介護が必要な40歳以上65歳未満の方については、介護保険制度が利用できる。平成25年4月からは「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に定める障がい者・障がい児の定義に難病等が加わり、障害福祉サービス、相談支援等の対象になっている。

また、医療費の助成に

ついては「難病の患者に対する医療等に関する法律」が平成27年1月1日に施行され、現在指定難病として330疾病が指定され、安定的な自己負担助成が行われている。

村としては、「重度障がい者の医療費の助成に関する条例」で来年4月以降は65歳未満の重度難病患者に対して新たに医療費助成を実施する。

その中で難病患者について、個人に対し見舞金の給付は難しいと考える。

今後、国の動向、府・保健所などと連携を取り適切な支援に努める。

**要望** 府下でも実施されている自治体もある。アンケートや聞き取り調査等で生の声を聴いて実態を把握し、住民の立場で検討願う。







## 問 遊休農地の利活用は

## 答 農業委員会と共に有効活用に努める

### 山形 研介 議員

**問** 農家の高齢化や後継者不足などにより遊休農地が増加している。村では今後農地の利活用についてどのような施策を考えているのか、伺う。

**答** 農業者の高齢化や農家の減少が進展し、遊休農地の増加が懸念されている。本年度から大阪府と共同で「農の活性化プロジェクト」を実施する予定であるが、その中で企業参入による圃場整備や農業への新規参入を促進する取り組みを進めていく。また、農業委員会に関する法律の改正により、「農地利用最適化の推進」が必須事項となり、その中には遊休農地への対策も含まれており、今後、農業委員会と共に農地の有効活用を高めていく。

**問** 遊休農地の実態把握はどのようにしているのか。

**答** 実態については、農業委員会の委員とともに遊休農地や農地転用の現地確認を行い農地パトロールにより把握に努めている。

**問** 遊休農地対策として「農の活性化プロジェクト」では農業の担い手を育成・確保することに主眼を置き、その取り組みの一つは、新規参入者を確保し、「いちご」の生産拡大を図るもの。

**答** 「農の活性化プロジェクト」では農業の担い手を育成・確保することに主眼を置き、その取り組みの一つは、新規参入者を確保し、「いちご」の生産拡大を図るもの。さらに販路拡大への支援や「いちご」を活用して新商品を開発し村の特産品となるよう努める。



## 問 海外派遣事業の見直しについて

## 答 事業の継続や事業内容の見直しを検討する

**要望** 「休耕田を地域の特産品を生み出す源に」として、河内長野市では8月から「ドジョウ」を育てる試みが始められた。養殖には餌を与えない「無給餌」で約1年間、順調に成育するが確認したうえで、育ったところで地域の飲食店と協力し料理として提供を目指すとのことだ。

**問** 村でも遊休農地を地域の「お荷物」でなく、「ドジョウ」という特産品を生み出す源になるように農業委員会の協力を借りて取り組まれるよう要望する。

**答** 村では将来を担う青少年の英語力の向上、国際感覚を養い、国際化が進む社会の各分野において、活躍できる人材の育成など目的として事業を平成26年度より実施してきた。初年度は派遣者数は20名あったが、平成27年度は大幅に減少したことなどから昨年度一部見直しを行い、18歳まで拡大したが増加はなかった。効果検証は、非常に難しいものがあるが、派遣生へのアンケート調査などを参考にして、来年度における事業の継続や内容の見直しについて

**問** 村の教育的な事業と検査する。

**答** 事業というものは一定のゴールを見据え、結果の検証を行い、事業展開を図っていくものだと考えるが、開始から4年が経過し対象者を拡大するも増えず一旦この辺りをゴールとして、新たな方法での英語力の向上への取り組みをしては如何か。

**問** 事業展開する上で、明確な目的を持ち、ゴールを決めてといったことが基本であると考える。

**答** 本事業については、ゴールの設定が難しい内容かと思われる。

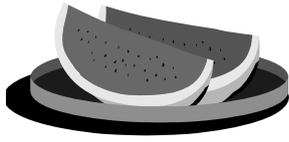
**要望** 中学校の全校生徒を対象に2泊3日程度の日程でどこかの施設を借り受けて、一日目は外国人講師など複数招き、この日は英語しか喋らないこと、「英語力」を上げ、二日目は感謝の心を忘れずに奉仕活動につとめるなど、一度テストケースとして実施し、検証するよう要望する。

# 議会活動日誌



## 8月

- 2日・第3回臨時議会
- ・全員協議会
- 4日・決算監査
- 7日・議員協議会
- 17日・議員勉強会
- ・大阪府町村議長会定例総会
- ・南河内環境事業組合議会
- 25日・国道309号バイパス期成会総会
- ・月例監査
- 29日・議会運営委員会



## 9月

- 1日・議員協議会
- 5日・第3回議会定例会
- (初日)
- 6日・決算特別委員会
- 11日・総務民生常任委員会
- 13日・文教建設常任委員会
- 15日・全員協議会
- ・議員協議会
- ・幹事長会議
- 19日・広報編集委員会
- ・議会運営委員会
- 22日・第3回議会定例会
- (最終日)
- 23日・千早小吹台小学校運動会
- 24日・赤阪小学校運動会
- 25日・月例監査
- 27日・村老人クラブ連合会
- 28日・健康福祉大会
- 30日・中学校体育祭



## 10月

- 1日・大阪狭山市30周年記念式典
- ・こごせ幼稚園運動会
- 2日・議員協議会
- 3日・海外派遣事業報告会
- 4日・広報編集委員会
- 13日・村内施設見学会
- 16日・広報編集委員会
- 19日・人権協会研修会
- 22日・豊能町40周年記念式典
- 23日・全員協議会
- 26日・月例監査
- 28日・ふれあい展・ふれあいコンサート
- 29日・議会運営委員会
- 30日・視察研修(千葉県東庄町)
- 31日



## 雑感



実りの秋、本番となりました。日本では四季折々に自然を感じる事ができ、とても素晴らしいと思っております。

食いしん坊の私は、何より日本の美味しい新米をいただけることを毎年楽しみにしています。

1年をかけて、土づくりから、水路掃除、畔づくり、田んぼへの水入れ、田植え、草刈り、水の管理等々、台風や日照りなど、天気状況を見ながら作業をすすめます。最近では、イノシシからお米を守る作業も大きな比重を占めています。こうした作業を通して、ようやく収穫でき、感謝を込めたお祭り awaits 待っています。

梨や栗、柿、ミカンなど、そろそろお正月を迎える果物が登場します。「棚田守り隊」の活動をはじめ13年になり、遅ればせながらコメ作りの苦労を知り、コメ作りを中心にした暮らしを実感した次第です。こうした歴史を次の世代に繋げていきたいと思っております。

H・S